

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪府吹田佐竹台住宅(5)	階数	地上7F、地下1F
建設地	吹田市佐竹台5丁目	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	159 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年8月5日
敷地面積	3,406 m ²	作成者	市浦ハウジング&プランニング 金
建築面積	636 m ²	確認日	2019年8月6日
延床面積	3,343 m ²	確認者	市浦ハウジング&プランニング 山田 敏人



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 64% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 64%

④上記+ 64%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	一次エネルギー消費量の削減に努め、緑地を設ける事で周辺環境にも配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用し、空気質環境の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には適切に緑化を施すことで、地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	高効率機器やLED照明により一次エネルギー消費量の削減に努めた。	LR3 敷地外環境 地表面に緑化を施す事で温暖化対策に努め、風の回復を図る計画とする事で周辺環境に配慮した。
Q2 サービス性能	躯体の耐用年数として、日本住宅性能表示基準における劣化等級3を満たす計画とし耐用年数向上を図る計画とした。	
LR2 資源・マテリアル	躯体材料以外においてリサイクル材を使用し、環境負荷の低減を図った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0075

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)大阪府営吹田佐竹台住宅(5丁目)民活プロジェクト					
	建設地	吹田市佐竹台5丁目					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.4	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		